

## Ⅱ 事業の概況

### 1. 指導事業

#### (1) 営農指導

農協法改正に伴う自己改革実践のため、農業所得の増大、地域農業の活性化を目指した次の事業を行ないました。

直接販売を意識した産地の育成に向け少量多品種、多品目栽培を奨励し、柑橘・キウイの果樹改植事業として、費用の助成を行ないました。また、柑橘の未収期間の短縮を目指し、柑橘の大苗育苗に取り組みました。

後継者が育つ農家の育成としては、定年帰農者等を対象とした農作物栽培講座や、トレーニング圃場栽培講習会も継続して開催しました。

地域を元気にする農家の支援としては、出荷物評価データに基づく栽培指導や土壌検定結果に基づいた施肥指導を実施し、品質の向上を図りました。

有害鳥獣対策の支援として、有害鳥獣被害防止資材等の購入にかかる費用の助成を行ないました。また、熱海ワナの会、伊東わなの会にて狩猟の講習会の開催や有害鳥獣の捕獲にかかる費用の助成も行ないました。

#### ① 柑橘

青島温州は、高品質安定生産対策として、園地の巡回や摘果・剪定講習会を開催しました。天候不順の影響を受け、果実糖度は平年より低くなりました。

また、橙は、出荷物評価データを活用し、評価が低かった生産者へ栽培指導をし、果実品質の向上を図りました。

高品質みかん生産及び柑橘の振興を目的に次の項目を実施しました。

ア 柑橘生産者大会及び柑橘品評会の開催

イ 青島温州の着色促進・高品質生産を目的にフィガロン乳剤、浮皮軽減対策にセルバインの散布推進

ウ 中晩柑の夏季土壌乾燥防止（肥大促進、減酸促進、樹勢維持）対策として、ナギナタガヤの種子の継続供給

エ 優良品種・優良系統への品種更新を進めるため、果樹改植事業の継続実施

#### ② キウイフルーツ

レインボーレッドは、キウイかいよう病対策として、環状剥皮は行わないことや夏季剪定を推奨し被害軽減に努めましたが、出荷量は減少しました。また、キウイかいよう病に強い東京ゴールドやアップルへの改植支援を行ないました。

#### ③ いちじく

大玉果生産のため、17葉摘芯栽培の推奨や樹勢強化・維持のための土壌分析結果に基づく個別施肥指導により土壌改良を図りましたが、秋の雨による影響で原料出荷が増加しました。

#### ④ 花き

生産物の品質の向上を目的に部会員による園地定期巡回を実施しました。優良品種普及に向け、田代圃場にて、ツツジ、サツキの母樹育成と挿し木穂木の供給を行ないました。また、植木セリ市場へサツキの共同出荷を行ないました。

#### ⑤ そ菜

部会員・ファーマーズマーケット出荷者の園地巡回を行ない、安全・安心・良質な農産物の生産指導を実施しました。また、部会員に対し肥料、農薬、資材の共同購入を推奨しコスト削減に取り組みました。

#### ⑥ 農業労災の保険料徴収状況

農作業中の事故の補償を受けるために、農業労災保険の加入を進め、平成29年度加入者8名分の労災保険料を受け入れ、全額納付しました。

## (2) 生活文化活動

### ① 健康管理活動

組合員をはじめ地域住民の健康づくり支援を目的に、中伊豆温泉病院の協力を得て生活習慣病総合検診を行ない、135名が受診しました。また、受診後の結果報告会や女性部健康教室等を開催し、健康に対する意識の高揚を図りました。

### ② 女性部活動

「JA女性部3か年計画～伝えよう・つながろう・広げよう～」実践初年度として、以下の活動に取り組みました。

ア. 部員家族等の食卓を安全・安心な食材で飾ることを目的とした手作り加工食品（みそ作り）運動の取り組みや、食と農が育む体験学習運動の一環として、小学生と青壮年部合同で、サツマイモ植え付けや収穫体験を行ないました。また、収穫したサツマイモを使用し、小学生と料理教室を開催しました。

イ. 豊かな暮らし地域づくりを目的に、ボランティアグループによる施設援助など積極的な活動の展開や、環境を守る取り組みとして、資源ごみの回収を実施しました。

ウ. 組織の強化や部員数の増加を目的に、女性部通信の発行、全体交流会、女性講座等の学習活動や、ウォーキングサークルなどの活動を実施し、部員間相互の交流と加入促進を図りました。

### ③ 新たな仲間づくり

教養を高め、若い女性リーダーの育成を目的とした女性大学は、2年目を迎えました。また、女性大学卒業生で組織する女性大学OG会を設立するなど、食と農に関心を持つ仲間づくりに取り組みました。

## (3) 教育情報

食農教育の一環として、JAバンク教育活動助成事業を活用し、管内の小中学校を対象とした青島みかんの贈呈並びに早生みかんの収穫体験を実施しました。

青壮年部は例年実施している農業への思いを表現した手作り看板コンクールへ2部門出品しました。また、「干支（戌）をテーマとした創作門松」を制作し、いで湯っこ市場前に飾りました。

## (4) 相談業務

顧問弁護士・顧問税理士の協力を得て、移動相談室を開催しました。相続・贈与・登記・税・法律など多岐にわたり、年間74件の相談に対処しました。

また、青色申告会を含む所得税の確定申告（84件）や消費税の申告（4件）の対応も行ないました。

## 2. 販売事業

### (1) 柑橘

管内の青島温州は2年連続で天候の影響を受け裏年傾向となり、取扱量は減少しました。果実内容は、天候不順により全期間を通して果実糖度は平年より低くなりました。青島温州の取扱量は67.1t、前年比79.5%でしたが、全国的に取扱量が少なく、販売高は前年比118.1%となりました。橙の取扱量は108.9t、前年比99.8%でしたが、外観が綺麗で直接販売に適した中玉・小玉階級が多い取扱いとなり、販売高は前年比104.7%となりました。

### (2) キウイフルーツ

レインボーレッドは、キウイかいよう病の影響を受け環状剥皮を行わなかったことから小玉傾向となりました。取扱量は3.5t前年比72.0%、販売高は前年比63.2%となりました。

### (3) いちじく

いちじくは、春先から天候に恵まれ、出荷は平年並みにはじまりました。しかし、10月

中旬以降の降雨の影響を受け、取扱量は伸びませんでした。取扱量は 28,753 パック、前年比 114.8%、販売高は前年比 119.1%となりました。

(4) 花き

管内における小口取引が中心となりました。夏場の高温乾燥や降水量が少ない影響でサツキ等、出荷規格に満たない物が多くあり出荷量が減少しました。

取扱量は 7,141 本（サツキ・ツツジ・ポット）、前年比 91.8%、販売高は前年比 104.6 となりました。

(5) いで湯っこ市場（ファーマーズマーケット）

季節ごと様々なイベントを開催し、リピーターの獲得や観光客の集客に努めましたが、10月の台風などの影響でいで湯っこ市場の来店客は 191,531 人となり、前年比 99.2%の結果となりました。しかしながら、販売高は、伊東マリンタウン店が順調に売り上げを伸ばした結果、3億9,429万円、前年比 101.7%となりました

### 3. 購買事業

---

(1) 購買業務

組合員・地域の皆さまへ良質で、安心、安全な商品の提供を心掛け、サービス向上に努めました。

生産資材については、種苗類、ダンボールが堅調に推移しましたが、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加に伴い、肥料・農薬の供給は伸び悩み、生産資材の取り扱いは前年度を下回りました。

生活資材については、シロアリ駆除や補聴器等の代行推進が好調に推移しました。購食米については、ホテル等大口購入先の取扱量の減少、スーパーマーケット・量販店での低価格販売等の影響により供給は伸び悩み、計画を下回りました。

購買品供給高の合計は 4億3,556万円、計画比 96.8%となりました。

(2) 葬祭業務

組合員や地域の皆さまが安心してご利用いただける年中無休、24時間体制の葬儀運営に努めました。

管内で 284 件（南熱海ホール 101 件、宇佐美ホール 51 件、伊東ホール 61 件、寺院・自宅ほか 71 件）の施行を行い、計画比 94.7%、葬祭業務の供給高は 3億9,513万円、計画比 100.0%となりました。

### 4. 宅建事業

---

組合員の所有する資産の維持を基本として、ホームページ・インターネットや新聞等を活用し、大切な資産の運用を支援しました。

事業収入で 1,777 万円（賃貸仲介 65 件 371 万円、売買仲介 7 件 562 万円、管理料ほか 843 万円）、計画比 95.0%となりました。

### 5. 信用事業

---

農業と地域・利用者をつなぐ金融機関として、農業と地域社会に貢献するため、農業を支える資金のサポートや農業への理解促進活動などを通じ、組合員・利用者との絆を深め、J Aらしい利用者のニーズに応じた金融商品・サービスの提供により、取引基盤の拡充に努めました。

貯金については 21 億 3,006 万円の増加となり、計画比 100.5%と目標を達成することができました。主要項目の年金についても、目標を上回る 1,249 件の受給口座の指定をいただくことができました。

貸出金については、住宅ローンを中心に新規・借り換えなどの推進活動に取り組みましたが、約定返済・他金融機関との競合・人口減少等による管内住宅着工件数の低迷なども影響し、14 億 4,320 万円減少、計画比 95.2%となりました。不良債権比率については、前年比 0.13 ポイント悪化し 4.05%となりました。

## 6. 共済事業

---

少子高齢化など、事業環境が厳しさを増す中、3Q訪問活動による保障点検や未加入者に対する訪問活動をより強化し、組合員・利用者との信頼関係の構築、万全な保障の提供と次世代層の普及に努めました。

長期共済は、新契約高 608 億 135 万円、計画比 173.7%と新しくなった建物更生共済を中心に大きく伸長しました。しかしながら、満期到来の増加や転換契約による減少で期首保有高の維持はできませんでした。自動車共済は、304 件の新契約を締結し、4,821 台の保有台数となりました。

また、事務処理の迅速化や効率化により、共済金支払い日数の短縮など、「安心」と「満足」の提供に努めました。

なお、各事業所のAED機材の交換や血圧計の導入を共済連と連携して実施しました。